第 199 回 長崎大学ＦＤ実施報告書（令和 2 年 3 月 18 日提出）

１．題　目： 高大連携及び入試改革を見据えた英語教育改善

２．日　時：令和 2 年 3 月 6 日（金）13：00～15：30

３．場　所：教養教育棟 A-12

４．主　催：英語小委員会、言語教育研究センター

５．対　象：全教員（教養教育外国語科目（英語）非常勤講師を含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第２項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義（６．に関連した形で記述すること）
高大連携及び入試改革に直面する大学において、それぞれを見据えた英語教育改善のため、FD を実施した。
英語教育において、テスト、評価、研究における統計学の知識は不可欠である。しかしながら、英語教員全員が教育データ分析に必要な統計学の知識を身に付けているとは必ずしも言えない。今回の FD では、統計学の専門家である関西大学外国語学部教授水本篤先生を講師に迎え、教育データ分析に必要な統計学の方法論についてご紹介いただいた。
今回は、初級レベルに焦点をあてていただき、クラス内での評価に役に立つ分析を Descriptive Statistics および Inferential Statistics の視点から説明をいただいた。また、統計分析における p-value の限界の説明をしていただき、新たな視点としての Effect Size の意義についてご講義いただいた。

８．プログラム構成［題目・担当講師］（当日使用した資料等を添付すること）
13：00～13：15 「今後の英語科目の基本方針等について」

西原俊明言語教育研究センター長

13：15～15：30 「Introduction to Statistics for Language Teachers」

（質疑応答含） 水本篤（関西大学 教授）

９．参加者：20 名

（内訳）

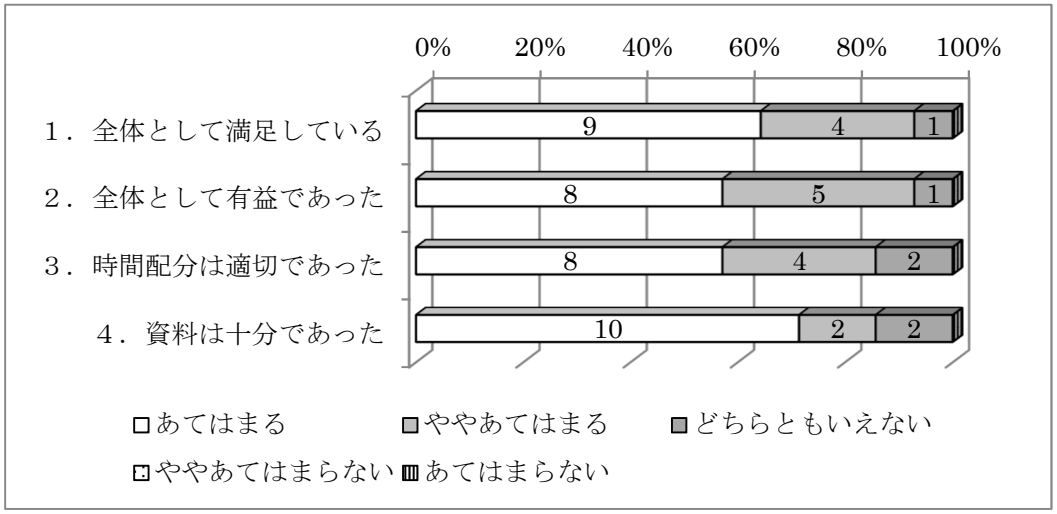
所　属	人数
言語教育研究センター	14
多文化社会学部	2
教育学部	2
経済学部	1
工学部	1
計	20

※　別紙に参加者名簿を添付してください。

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価（アンケートの集計結果を記述する）

（回答者：14 名）



今回のＦＤの運営に関して感想や意見

・ 大変ためになる FD でした。ありがとうございました。
・ この統計 FD をシリーズ化してほしい。
・ 可能な場合は、資料を先にいただけると理解が深まるのでありがたいです。
・ 統計学の基礎的素養はお持ちの方が多いと思いますので、何か具体的な事例を用いて分析の手順を示していただけると有難かったです。p-values が役に立た

ないこともあるということが分かりました。

・ 統計学の知識がほとんどない教員にとっては多少理解が難しかったと思いますが、基礎的な知識があれば最新の統計法の考え方を学べるよい FD だったと思います。

・ クラス間の学力の違いなどを教員の直感ではなく、きちんと統計に基づいて分析する必要性を学ぶことができたと思います。その意味では日常の授業にも役に立つと思います。

（アンケートからそのまま抜粋）

（２） 総　括

今年度も 2 回の FD を予定していたが、コロナウィルス感染の影響が予想以上に大きく、講師の先生の移動時の安全や参加者の感染予防の観点から、2 回目の FD（3 月 15 日実施予定）を中止し、1 回目は学内教員のみを対象とする形で実施した。実施にあたっては、入室時の消毒のお願い、教室内の座席間のスペースを広くとるなどの対策のもと実施した。

参加者は熱心に講師の話に耳をかたむけ、また、講演後半を利用して、講義内容についての質疑応答が行われた。かなりの数の熱心な質問があり、基礎的な質問からかなり上級の質問まで講師の先生との質疑応答が繰り返された。質問の多さに、参加者の意識の高さを感じられる FD だった。

なお、今回の水本教授による講演「Introduction to Statistics for Language Teachers」は本人の了解のもと、講演内容をすべて録画した。今後、諸般の事情から参加できなかった専任教員には録画したものと資料を NUDrive にアップロードし、フィードバックを課した。また、非常勤講師等も視聴することができるようにする予定である。

（文責：小笠原真司）

１１．実施代表者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：言語教育研究センター長　　氏　名：西原俊明
e-mail：t-nishi@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2095

１２．申請者の連絡先

部　局：言語教育研究センター
職　名：教授　　氏　名：小笠原　真司
e-mail：ogasa-s@nagasaki-u.ac.jp　　内　線：2094